

富士フィルム高画質と小型化を両立させた
フルデジタル超音波画像診断装置
「FAZONE M」を発売
(2006/10/27)

富士フィルム(株)は、最先端の技術であるZONE Sonography技術により、高画質と小型化を両立させたフルデジタル超音波画像診断装置「FAZONE (ファゾーン)M」を12月より発売した。

<主な特長>

● ZONE Sonography技術

- 1)大きなゾーンで大量のエコーデータを高速収集幅が広い超音波ビームを送信し、大きなゾーンで大量のデータを高速に収集する。
- 2)チャンネル・ドメイン・プロセッシング従来はカスタムハードウェアで行っていた超音波のビームフォーミングをソフトウェアで実現するとともに、収集した大量のデータをメモリに蓄え、ソフトウェアで高度な画像処理を行うチャンネル・ドメイン・プロセッシングにより、高画質画像を構築する。

● 音速補正機能

高度な画像処理技術により、体内における最適な音速を推定し、それに基づいて画像を構築する。これにより、臓器や体型の違いに左右されない、高い分解能を安定して得ることができる。

● コンバーティブル機能

ZONE Sonography技術により、高画質と小型化を両立させることに成功し、検査室などで使い勝手がよく高画質な据え置き型装置と2.5kgと超軽量かつ高画質のポータブル装置の二通りの使い方が可能なコンバーティブル機能を実現。

富士フィルム
(FAZONE M)

